

東谷山スキー (2/17) 報告

山行日：2月17日（日）

天候：雪のち曇りときどき晴れ

登山方法：山スキー

メンバー：CL 菊池、池田、庭田、薄井（記録）

行動時間：二居 8:30－地王堂川沿－台地－作業道ルート－山頂 12:15－北斜面滑走（標高差約 100m）－山頂（登り返し後）13:30－北西斜面滑走－貝掛温泉入口バス停 15:15



昨年スノーシューで歩いた東谷山にスキーで行くことになった。二居の集落から林道に入り、東谷山の山頂から北西斜面を滑り降りるルートは、車が2台あれば1台デポすることになるが、今回は貝掛温泉入口のバス停からバスに乗り、二居まで戻る計画になっている。

街道の湯奥の駐車場に車を停め、支度をして出発。昨年東谷山から日白山を周回して下ってきた林道を、今日はスキーで歩き始めた。はっきり言って想定以上の積雪・降雪である。

地王堂川沿いの林道を外れ、山へ向かって樹林帯の中のトレースをなぞって登る。このコースは山頂直下の等高線が狭まっておりなかなかきつそうだが、ここには地形図にもない作業道があってこれにそって登るのだそうだ。

樹林帯を抜けると見通しの良い斜面に出た。雪崩が発生するため、一部だけ木が低いのだ。

少しずつ急になってきた雪面は砂丘のようで、その谷間が作業道になっているらしい。1 場所、作業道をショートカットしているトレースを進まず、作業道を忠実にラッセルしたが、膝上まである積雪の先頭は相当に大変である。トレースがなかったら、今日は時間切れで敗退だったかもしれない。



しばらくして上部にいるパーティに追いついた。その先にトレースはなく、ボードのガイドツアーの女性ガイドがほとんど一人でラッセルしてきたらしい。ケタ違いの体力だ。ここからは先頭を交代しながら進む。

稜線が近くなると雪がやみ、青空が見えてきた。



ヘリが上空を旋回している（前日かぐらに入って連絡が取れなくなっていたパーティを捜索するものだった）。こちらは雲が取れたが、かぐらの山頂はいまだ雲の中である。

全員でしばらく頑張ると、メジャーである尾根ルートからのトレースと合流しラッセルから解放された。山頂はもうすぐそこだった。



登りに苦労したので今日は北西斜面を滑るだけだと言っていたリーダーの気が変わり、まずは北斜面を滑り、登り返して北西斜面を滑ることになった。疎林の緩斜面は間もなく急に落ち込んだ。大量のパウダーはふつうは気持ちいいのかもしれないが、あまり経験したこのない状況で何だかよくわからない。転んだらまずいという危機感と、登り返しが大変だなあという心配をしつつ、そろそろと滑った。



やはり北斜面だけあって雪は軽く、登り返しは登りの南斜面よりは楽だった。

山頂から改めて帰り道となる北西斜面へドロップ。こちらにも北斜面と同様の疎林だが急斜面、しかも深雪パウダー。斜面はだんだん狭くなり雪は次第に重くなってくる。下手な足前でたぶん滑ることに人よりエネルギーを要するので、「これはスキーですか？」と思わず池田さんにぼやくほどぐったりして



しまった。



国道近くなると、雪面は先行者に踏み固められてスキー場のような圧雪状態になった。いったんスキーを外して国道をくぐり、反対側の道路脇を、眼下に車の往來を眺めながらの一



滑り。バスは 1 時間に 1 本程度しかないが、誰も時間を覚えていない。しかし驚いたことに全員が国道に降りたところでちょうどバスがやってきた。全く待つことなくバタバタとバスに乗り込み（荷物込みで 300 円）、二居へ無事帰還した。